

令和2年度入学生用カリキュラムマップ

【文学研究科 臨床心理学専攻】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
20MPWP1301	課題研究Ⅰ	1	院生各自が選択する研究テーマと直接関係する研究指導を行う。	1. 研究課題に基づいて研究計画を決定する。 2. 研究倫理に関する基礎知識を身につける。 3. 文献をレビューして、基礎論文を完成させる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎				○		
20MPWP2301	課題研究Ⅱ	2	院生各自が選択する研究テーマと直接関係する研究指導を行う。なお、この科目は、「課題研究Ⅰ」からの継続科目である。	1. 研究方法を確定し、研究倫理審査を受審する。 2. 中間報告会で発表を行う。	◎	◎	◎	◎	◎	◎				○		
20MPWP2302	課題研究Ⅲ	2	院生各自が選択する研究テーマと直接関係する研究指導を行う。なお、この科目は、「課題研究Ⅰ」および「課題研究Ⅱ」からの継続科目である。	1. 修士論文を完成させる。 2. 最終試験（口頭試問）を受けて履修便覧記載の審査項目の基準を満たすこと。	◎	◎	◎	◎	◎	◎				○		
20MPWP1202	臨床心理学特論Ⅰ	1	心の専門家になるために必要な心理臨床の実践および研究に関する倫理を学び、心の専門家が実際に直面する諸問題について検討する。そして、心の専門家として、心理臨床場面に相応しい基本的態度を身につけることを目標とする。	1. 心の専門家としての実践および研究に関する倫理的態度を身につける。 2. 実際のケースを取り上げて、職業倫理や研究倫理の視点から検討し、適切な対応ができる力を身につける。	○	○	◎				○	○				
20MPWP1203	臨床心理学特論Ⅱ	1	代表的な心理療法およびカウンセリングの理論や技法を学び、それらを応用できる能力を養成することを目指す。	1. 代表的な心理療法およびカウンセリングの歴史、概念、意義、適応についての知識を身につける。 2. カウンセリングにおける基本的な理論と技法を身につけ、実践できる。	○		◎				○	○				
20MPWP1204	臨床心理査定特論	1	臨床心理査定の理論と実際について基本的な理解を身につける。人格検査の心理査定を理解するには、たんに心理検査を理解するだけでなく、その背景となる人格理論を習得することが重要となるので、その学習も含まれる。「心理的アセスメントに関する理論と実践」で取り上げなかった心理検査の実施法や解釈法、所見作成を扱う。	1. 臨床心理査定に関する理論（その背景にある人格理論を含む）と実際について基本的な理解を身につける。 2. 心理検査（人格検査）を適切に実施して、結果を解釈し、所見を提出できる。 3. 心理臨床、教育、医療、福祉における心理査定の実際について知る。	○			◎			○	○	○	○		○
20MPWP1205	臨床心理面接特論	1	心理支援に関する理論と実践で学んだ面接法の理論や技法を使って、様々なケースにおける臨床面接の実際についてケース研究ができるようになる。	1. クライアントとの面接ができる基本技能を身につける。 2. ケース研究によってクライアントと治療関係を検討できる技能や能力を身につける。	○		○	○	○	○	○	○		◎		○
20MPWP1306	臨床心理基礎実習	1	臨床心理実習に進む前の、より基礎的な実習を行い、臨床実習ができる基礎力を身につける。	1. グループの中で自己表現を体験し、自分に出会い、自己分析を行う能力を身につける。 2. いくつかの心理テストとロールプレイングの体験を通して、臨床倫理を身につける。	○		◎	○			○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性						
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3									
20MPWP1210	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1	司法・犯罪分野で働く公認心理師等の心理実務者の職務や倫理規範について理解を深める。犯罪・非行の諸理論を概観し、非行少年や犯罪者の心理的アセスメントについて学び、様々な矯正処遇法に関する基礎知識を身につける。	1. 犯罪・非行は、心理的・生物的・社会的な諸要因が複合して生じることを知り、諸理論の概要を理解する。 2. 犯罪・非行臨床における心理査定と矯正処遇技法の実践力の基礎を身につける。 3. 犯罪や非行に関わる諸機関の心理系専門職の実務や倫理を理解する。	◎	○	○													
20MPWP1211	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1	公認心理師等の心理実務者として、労働者に対する相談・援助等を行う能力とともに、研修等が行える能力を育成する。また、メンタルヘルス対策の活動を行うことで労働環境の改善や労働者のパフォーマンスの向上ができるような技能を育成する。	1. 労働者に対する相談・援助等を行う能力と研修等が行える技能を身につける。 2. メンタルヘルス対策の活動、労働環境の改善ならびに労働者のパフォーマンスの向上を促す事ができる技能を身につける。	◎	○	○													
20MPWP1212	心理的アセスメントに関する理論と実践	1	公認心理師等の心理実務者として、心理的アセスメントに関する倫理的配慮について理解し、理論と実施法、解釈法を学び、実際に心理的アセスメントを実践できることを目的とする。また、結果の伝え方や結果に基づく心理支援を行えるようになることも目的としている。	1. 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義を理解する。 2. 心理的アセスメントに関する理論と方法を身につける。 3. 上記1および2から心理に関する相談、助言、指導等ができる能力を身につける。 4. 各検査の結果の解釈法を学び、結果に示された内容を理解する。	○	○	○	◎			○	○	○							○
20MPWP1213	心理支援に関する理論と実践	1	支援・援助を必要としている人に対して、心理支援に関する理論を学び、学んだ理論を実践で活用できることは、重要な事である。そのために、心理療法の理論および実際に活用する際に必要な技能などを身につける。	1. 力動論に基づく心理療法の理論と方法を理解する。 2. 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法を理解する。 3. プレイセラピーなどその他の心理療法の理論と方法を理解する。 4. 上記1、2および3から心理に関する相談、助言、指導等の技能を身につける。 5. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整ができる技能を身につける。						○		◎							○	○
20MPWP1214	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	1	従来の心理支援は、個人に対する支援が中心であったが、時代の変化と共に家族関係など集団の関係性を取り上げたり、地域社会や集団・組織に働きかける支援も重視されるようになってきた。この授業では、集団の関係性に焦点づける心理支援およびコミュニティへの心理支援を中心に様々な理論ならびに方法論を学ぶことを目的とする。	1. 家族関係等集団の関係性に焦点づけた心理支援の理論や方法を説明できる。 2. 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する心理学的援助の理論や方法を説明できる。 3. これらの理論や方法を心理に関する相談や助言、指導などに応用できる。	◎	○	○													
20MPWP2205	心の健康教育に関する理論と実践	2	心の健康の基盤となるような、自分の感情のコントロール力、自己表現、他者の感情への気づき、対人関係の構築力、問題解決能力などを伸ばすための様々なプログラムを理解し、実際に助言、指導が行える技能を養成する。さらに、心の健康における重要な問題である、いじめ、暴力、自殺などの予防啓発教育を実行できる能力を習得する。	1. 心の健康の基盤である社会性や情動調整力を伸ばす手法を理解し、実行できる。 2. 心の健康における実際の重要問題としての、いじめ、暴力、自殺などの予防啓発教育を理解し、実行できる。	◎	○	○													
20MPWP1215	心理統計法特論	1	修士論文研究に必要な統計処理法を解説し、さらに演習形式で処理を実践する。	1. 修士論文研究に必要なデータ処理スキルを習得する。 2. 統計検定に関するスキルを習得する。 3. 多変量解析に関するスキルを習得する。	○	○	○				◎		○						○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3						
20MPWP1322	心理実践実習(学外) I	1	学外の施設などの職務内容を理解するとともに施設職員との関わりを通じて、職務領域の選択ならびに自己の適性を理解する。また、各専門領域についての研究能力、実践能力および学習意欲の向上を育成することを目的とする。 なお、実習期間中、実習担当教員による巡回指導等を行うことにより、学外施設と大学院が連携して上記目的の達成を図ることとする。	1. 学外施設での職務内容の理解および継続的にケース担当ができる力を身につける。 2. 学外施設での職務内容について、見学・陪席等を通じて理解し、記録・報告の仕方を身につける。 3. ケースに関する連絡・引き継ぎや、ケース検討会での討議を通して、多職種連携および地域連携、地域支援の在り方に関する臨床技能を身につけ、クライアントへのチームアプローチができるようになる。	○	○	○	○				○	○	◎	◎	◎	
20MPWP2308	心理実践実習(学内) II B	2	学内実習施設で継続的にケースを担当することにより、①援助的関係構築能力、②臨床的アセスメント能力、③援助的介入能力を養成する。	1. インテークに陪席し、インテークの取り方、まとめ方、報告の仕方を身につける。 2. 発達検査・知能検査、その他の心理検査の実施・報告書の作成・フィードバックについて、実習を通じて身につける。 3. カウンセリング、プレイ・セラピー、SSTや療育など、ケースに応じた介入方法を選択し、実施することができる。 4. 継続的に複数のケースを担当することを通して、援助的関係構築能力を習得する。 5. ケースを担当することにより、守秘義務や必要な倫理等について体験的に身につける。 6. ケース検討会での討議を通して、幅広い視点からケースを担当できる力を身につける。	○		○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
20MPWP2309	心理実践実習(学外) II	2	学外の施設などの職務内容を理解するとともに施設職員との関わりを通じて、職務領域の選択ならびに自己の適性を理解する。また、各専門領域についての研究能力、実践能力および学習意欲の向上を育成することを目的とする。 なお、実習期間中、実習担当教員による巡回指導等を行うことにより、学外施設と大学院が連携して上記目的の達成を図ることとする。	1. 学外施設での職務内容の理解および継続的にケース担当ができる力を身につける。 2. 学外施設での職務内容について、見学・陪席等を通じて理解し、記録・報告の仕方を身につける。 3. ケースに関する連絡・引き継ぎや、ケース検討会での討議を通して、多職種連携および地域連携、地域支援の在り方に関する臨床技能を身につけ、クライアントへのチームアプローチができるようになる。	○	○	○	○				○	○	◎	◎	◎	
20MPWP1323	心理実践実習指導(学内) I	1	学内実習施設において、実習を適切かつ有効に行えるように、事前指導や事後指導などを行い、公認心理師としての責任感や技量を身につける。	1. 公認心理師に必要な実践力を習得する。 2. 公認心理師として各分野で活躍できる実力を身につける。					○	○	◎	◎	◎	○	○	○	
20MPWP1324	心理実践実習指導(学外) I	1	学外実習施設において、実習を適切かつ有効に行えるように、事前指導や事後指導などを行い、公認心理師としての責任感や技量を身につける。	1. 公認心理師に必要な実践力を習得する。 2. 公認心理師として各分野で活躍できる実力を身につける。	○	○	○					○	○	○	◎	◎	◎
20MPWP2310	心理実践実習指導(学内) II	2	学内実習施設において、実習を適切かつ有効に行えるように、事前指導や事後指導などを行い、公認心理師としての責任感や技量を身につける。	1. 公認心理師に必要な実践力を習得する。 2. 公認心理師として各分野で活躍できる実力を身につける。					○	○	◎	◎	◎	○	○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	
20MPWP2311	心理実践実習指導(学外)Ⅱ	2	学外実習施設において、実習を適切かつ有効に行えるように、事前指導や事後指導などを行い、公認心理師としての責任感や技量を身につける。	1. 公認心理師に必要な実践力を習得する。 2. 公認心理師として各分野で活躍できる実力を身につける。	○	○	○					○	○	○	◎	◎	◎